

イネ科雑草が出穂している畦畔で 斑点米カメムシ類が多い ～農道・畦畔、休耕田などの除草の徹底を～

1 現在までの発生状況

- 1) 牧草地（3地点）におけるアカスジカスミカメ（以下、アカスジ）の越冬世代成虫の平均初確認日は5月29日（平年6月7日）、アカヒゲホソミドリカスミカメ（以下、アカヒゲ）は5月18日（平年5月24日）でいずれも早かった。
- 2) 6月2～3半旬の巡回調査（40地点）における畦畔での斑点米カメムシ類のすくい取り数（50cm幅、40回振）は2.4頭（平年1.7頭）でやや多く、発生地点率は35.0%（平年33.7%）で平年並だった。そのうち、アカスジのすくい取り数は1.4頭（平年1.3頭）で平年並、アカヒゲのすくい取り数は0.9頭（平年0.4頭）でやや多かった（表-1）。
- 3) 同調査における畦畔雑草の生育状況別のすくい取り数は、「除草している」よりも「除草しているが、出穂しているイネ科雑草がある」や「除草していない」の方が多かった（表-2）。
- 4) 以上のことから、畦畔などに出穂しているイネ科雑草があるほ場を中心に今後、斑点米カメムシ類の発生量が多くなると予想されることから、以下の防除対策を行う。

2 防除対策

- 1) 農道・畦畔、休耕田などにおいて出穂しているイネ科雑草がある場合は、直ちに除草を行う。
- 2) 現在、除草が徹底されている場合でも、稲が出穂する15～10日前まで継続して除草を行い、イネ科雑草が出穂しない管理に努める。
- 3) 水田畦畔刈り込み代用剤を散布すれば、40～50日の抑草効果が期待できる。
- 4) 本年は水田内雑草の生育が早いため、残草が多い場合は、雑草の発生草種や生育程度を観察して、それぞれに除草効果の高い中・後期剤を選択する。

3 資料

表-1 畦畔での斑点米カメムシ類のすくい取り結果(6月2～3半旬)

	斑点米カメムシ類		アカスジ		アカヒゲ	
	すくい取り数(頭)※	発生地点率(%)	すくい取り数(頭)	発生地点率(%)	すくい取り数(頭)	発生地点率(%)
2026	2.4	35.0	1.4	20.0	0.9	17.5
過去5か年平均	1.7	33.7	1.3	28.1	0.4	15.8
概評	やや多	並	並	やや少	やや多	並

※アカスジ、アカヒゲ以外の種も含まれる

表-2 畦畔雑草の生育状況別の斑点米カメムシ類すくい取り数(6月2～3半旬)

雑草の生育状況	雑草生育状況別地点率(%)	斑点米カメムシ類(頭)※	アカスジ(頭)	アカヒゲ(頭)
除草している	55.0	1.0	0.5	0.5
除草しているが、出穂しているイネ科雑草がある	32.5	4.9	4.7	0.2
除草していない	12.5	6.6	1.6	4.8

※アカスジ、アカヒゲ以外の種も含まれる

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所 Tel 018-881-3660
秋田県農業試験場 Tel 018-881-3326
掲載HP <https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>